取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

FJ CRUISER

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

さくいん

外観

補助確認装置 P. 62
ヘッドライト P. 125
フロントワイパー P. 129
アンテナ P. 172
ボンネット P. 204
ドアミラー P. 59
TOYOTA
方向指示灯 P. 115
車幅灯 P. 125

制動灯／尾灯 P. 125
給油口 P. 66
A
TOYOTA
ドア P. 27
アクセスドア
（リヤドア）P. 30
タイヤ
●ローテーション P. 200
●交換 P. 248

A

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席 SRS エアバッグ P. 72
小物入れ P. 183
運転席 SRS エアバッグ P. 72
ホーン P. 118
シートベルト P. 52
ヘッドレスト P. 50
ボトルホルダー P. 182
A
B
C
STSPIACC14
リヤカップホルダー P. 181
リヤシート P. 44
SRS サイドエアバッグ P. 72
フロントシート P. 42
フロアマット P. 189
発炎筒 P. 237

A
バニティミラー P. 185
サンバイザー P. 184
インテリアライト
P. 176
STSPIACC05
パーソナルライト
P. 176
インナーミラー P. 58
SRS カーテンシールドエアバッグ P. 72

B
ウインドウロックスイッチ P. 64
ドアロックスイッチ P. 27
ロックレバー P. 28
STSPIACC06
パワーウインドウスイッチ P. 64

C
フロントカップホルダー P. 180
シフトレバー P. 112
トランスファーレバー P. 144
シフトロック
解除ボタン
P. 262
STSPIACC07
パーキングブレーキレバー
P. 116
フロントカップホルダー P. 180

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

A
助手席シートベルト
非着用警告灯 P. 247
時計 P. 186
非常点滅灯スイッチ P. 236
PASSENGER
TEMP
A/C
LO
OFF
HI
STSPIACC09
セキュリティ警告灯 P. 69
マニュアルエアコン P. 164
リヤウインドウ
デフォッガースイッチ P. 170

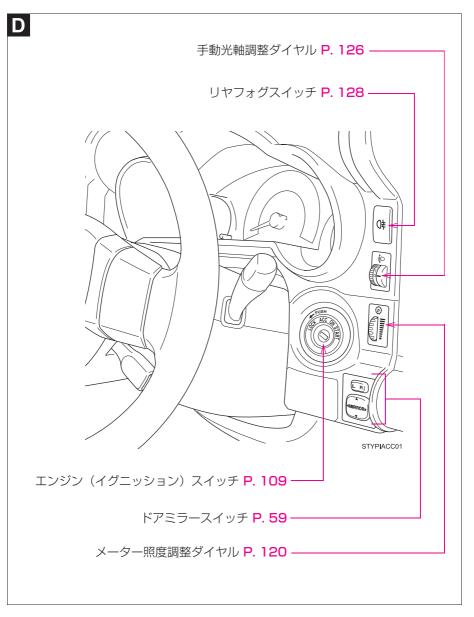
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

C

ワイパー＆ウォッシャースイッチ P. 129
リヤワイパー＆ウォッシャースイッチ* P. 131

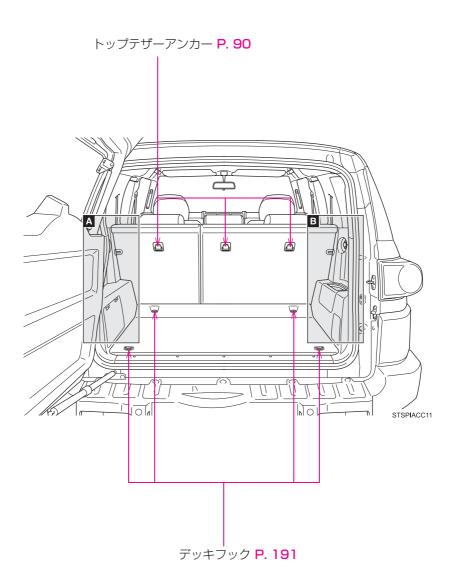
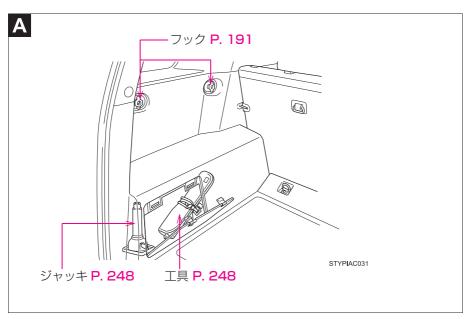
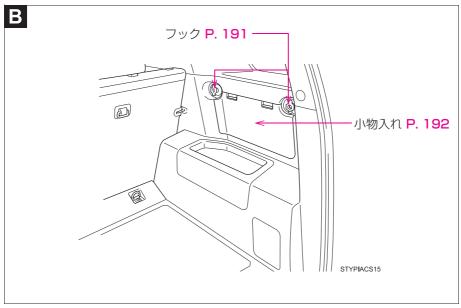
TILT
MODE
STYPIACC02

ハンドル位置調整レバー P. 57

ステアリングスイッチ P. 171

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ラゲージルーム

A
フック P. 191
ジャッキ P. 248
工具 P. 248
STYPIAC031

B
フック P. 191
小物入れ P. 192
STYPIACS15

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因になったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

飲酒運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 90)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。
(法律で義務付けられています)

本書の中の表示について

警告・注意・知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

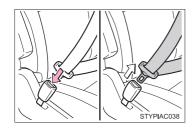
知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。

操作を示す矢印

- スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。
- 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動
（→P. 25）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

3 キーナンバープレート

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一、キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 263）

■航空機に乗るときは

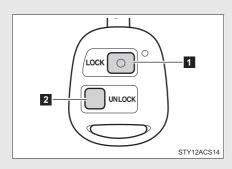
航空機にワイヤレスキーを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを分解しないでください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■半ドア警告ブザー

ドアまたはバックドアガラスが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアまたはバックドアガラスを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■電池の消耗について

電池の標準的寿命は１～２年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。（→P. 225）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約３０秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

●近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき

●無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき

●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■販売店で設定可能な機能

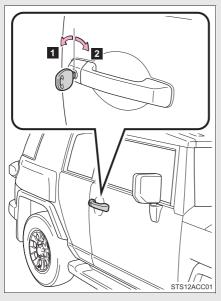
ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 279）

ドア

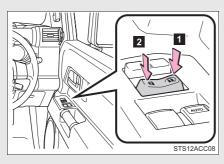
ワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ ワイヤレス機能

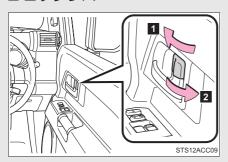
→P. 25

■ キー

1 全ドアを解錠する

2 全ドアを施錠する

■ ドアロックスイッチ

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバー

1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

キーがエンジンスイッチに差し込まれているときは施錠されません。

⚠ 警告

■事故を防ぐために

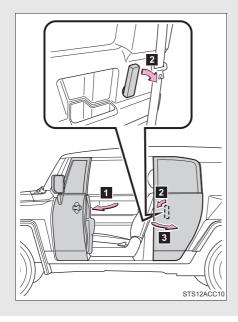
運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

アクセスドア（リヤドア）

室内のドアハンドルを使用してアクセスドア（リヤドア）を開けることができます。

1 フロントドアを大きく開ける
2 アクセスドア（リヤドア）のドアハンドルを引く（車外側）、押す（車内側）
3 アクセスドア（リヤドア）を開ける

フロントドアを大きく開けてからアクセスドア（リヤドア）を開閉してください。

警告

■アクセスドア（リヤドア）を開けるときは

アクセスドア（リヤドア）を開ける前にフロント席の乗員がシートベルトをはずしていることを確認してください。シートベルトが着用されたままアクセスドア（リヤドア）を開けるとシートベルトがロックしてフロント席の乗員がベルトで締め付けられる場合があり、重大な傷害につながるおそれがあります。

■アクセスドア（リヤドア）を閉めるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ドアを開閉するときは十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアを閉めるときは、手や指などを挟まないよう十分注意してください。

注意

■フロントドアとアクセスドア（リヤドア）を開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両に傷がついたり、損傷する場合があります。

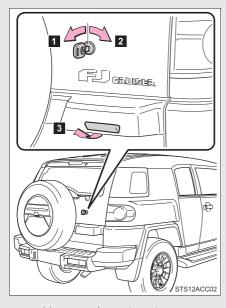
- フロントドアが完全に開いていない状態でアクセスドア（リヤドア）を開閉しない
- フロントドアとアクセスドア（リヤドア）を同時に開閉しない
- フロントドアを閉じてからアクセスドア（リヤドア）を閉じない
  アクセスドア（リヤドア）を閉じてからしかフロントドアを閉じることはできません。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

■ バックドアの施錠・解錠

▶ワイヤレスリモコン
→P. 25

▶キー

1 バックドアを解錠する

2 バックドアを施錠する

3 ドアハンドルを引いてドアを開ける

施錠側にキーを回して保持するとバックドアガラスが開きます。(→P. 37)

▶ドアロックスイッチ
→P. 27

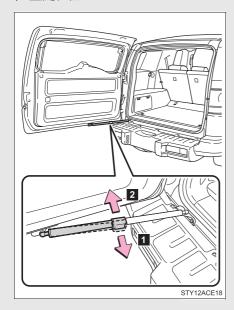
■ **バックドアを開けた状態で保持するには**

次の位置でバックドアを保持することができます。

▶半開き位置

バックドアを半分ほど開ける

バックドアを閉めるときには保持されません。

▶全開位置

全開位置でバックドアを保持することができます。

1 ロックする

2 ロックを解除する

バックドアを閉める前に、必ずロックを解除してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
  バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
  急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

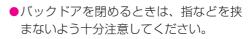
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

⚠ 警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- ●バックドアステーがロックしていない状態で使用すると、バックドアが急に閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。バックドアを開けて作業するときは、必ずバックドアステーをロックした状態で行ってください。

- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。

- ●バックドアステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

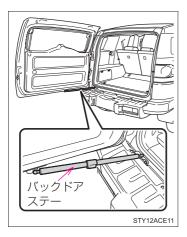
●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開閉操作のさまたげとなるおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■**バックドアを開けて駐停車するときは**

車両後方に停止表示板、または停止表示灯を置いてください。バックドアが開いていると、非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**バックドアステーについて**

バックドアには、バックドアの動きを制限するためのステーが取り付けられています。バックドアステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

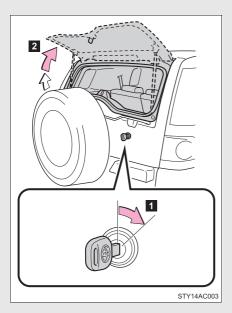
●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●ステーの上に乗ったり、ものを載せたりしない。また、無理な力をかけない

●バックドアを閉める前にバックドアステーのロックが解除されているのを確認してください。

バックドアガラス

バックドアは閉じたまま、キーを使用してバックドアガラスのみを開くことができます。

1 キーを挿し込み、施錠側いっぱいにまわしたまま保持するとバックドアガラスが少し開く

2 ツマミを引き上げてバックドアガラスを持ち上げる

閉めるときは、バックドアガラスをゆっくり降ろしてバックドアに押し付け、確実にロックします。

知識

■バックドアガラスについて

バックドアガラスはゆっくりと開いてください。

■リヤワイパー・リヤウォッシャーの作動中は（リヤワイパー装着車）

バックドアガラスが開くと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが停止します。
バックドアガラスを閉めると、作動が再開します。

■バックドアガラスを閉めたあとは（リヤワイパー装着車）

バックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。
確実にロックされていないと、リヤワイパー・リヤウォッシャーが作動しません。

警告

■走行中の警告

●走行中はバックドアガラスを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアガラスが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアガラスが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアガラスが確実にロックされていることを確認してください。
バックドアガラスが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアガラスが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■お子さまを乗せているときは

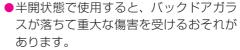
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアガラスの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアガラスが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアガラスの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアガラスを開ける前に、バックドアガラスに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアガラスが落下するおそれがあります。
- バックドアガラスを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアガラスが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

⚠ 警告

●半開状態で使用すると、バックドアガラスが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアガラスの開閉がしにくく、急にバックドアガラスが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアガラスが全開で静止していることを確認して、使用してください。

●バックドアガラスを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアガラスは必ず外から軽く押して閉めてください。

●ダンパーステーを持ってバックドアガラスを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、ダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

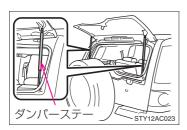
●バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。
バックドアガラスの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

⚠ 注意

■バックドアガラスを閉める前に

キーが車外にあることを必ず確認してください。
キーが車内にあってもバックドアガラスを閉めることができるため、キーを車内に閉じ込める可能性があります。

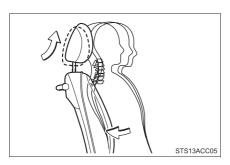
■ダンパーステーについて

バックドアガラスにはバックドアガラスを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアガラスにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

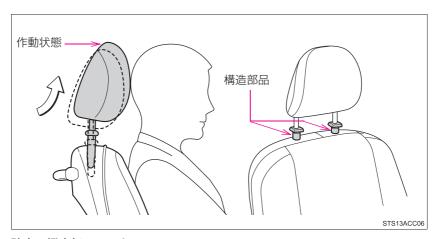
1 前後位置調整
2 クッション前端の上下調整※
3 シート全体の上下調整※
4 リクライニング調整

※運転席のみ

アクティブヘッドレスト（フロント席）

追突の衝撃によって、乗員の腰がシートバックを押すことでヘッドレストが少し斜め上方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

知識

■アクティブヘッドレストについて

シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。なお、解除ボタンを押さずにヘッドレストを無理に押し上げると、ヘッドレストの構造部品が出てきますが、故障ではありません。

■防水、撥水加工シート

シートには防水、撥水加工がされています。ただし、撥水効果は永久ではありません。効果が低下したときは市販の撥水スプレーを使用するとある程度回復します。

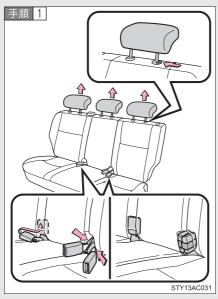
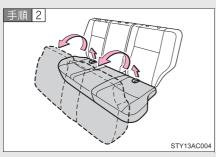
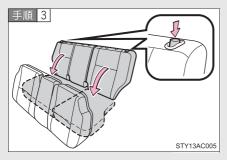
警告

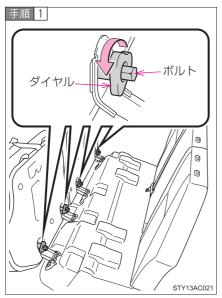
■リクライニング調整について

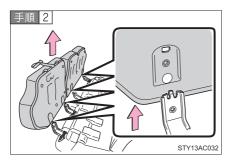
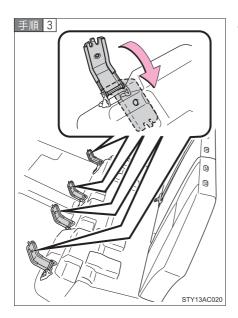
●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり、肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

ヘッドレストをはずし、シートベルトのバックルを格納する

ロック解除ストラップを引き、シートクッションを前方に引きあげる

ロック解除ボタンを押して、背もたれを倒す

シートクッションの取りはずし方

工具を使用してボルトを取りはずす

手でゆるめることができるようになったらダイヤルでボルトをまわすと楽にはずせます。

留め金からシートクッションを取りはずす

留め金をイラストのように倒す

知識

■背もたれをもどせないときは

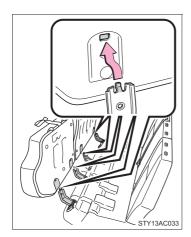
STY13AC006

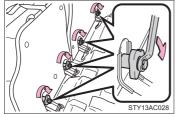
シートベルトのロックを解除してください。

1 背もたれの前端を押してシートベルトをゆるめる

2 シートベルトを少しもどす

■シートクッションを取り付けるときは

STY13AC033

ボルトを取り付ける前に留め金の爪をシートクッション裏の穴にさし込む

STY13AC028

工具を使用し、ボルトを締める

締め付けトルク：
17 N·m（170 kgf·cm）

■防水、撥水加工シート

シートには防水、撥水加工がされています。ただし、撥水効果は永久ではありません。効果が低下したときは市販の撥水スプレーを使用するとある程度回復します。

警告

■背もたれを前倒しするときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとの位置にもどすときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に背もたれをもとの位置にもどさない
- 手や足を背もたれに挟まれないようにする
- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれていたり、挟み込まないようにする
- シートベルトをもとの位置に正しくもどす

■シートクッションを取り付けたり、取りはずしたりするときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

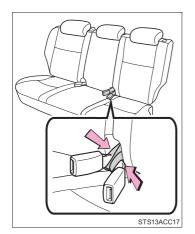
- 走行中にシートクッションを取り付けたり、取りはずしたりしない
- シートクッションを取りはずした状態で乗車させない
- シートクッションを固定していない状態で車両に放置しない
- 取りはずしたシートクッションに座ったり、物を置いたりしない
- シートクッションを落とさない
- シートクッションの取り付けボルトはトルクレンチを使用して 17 N·m（170 kgf·cm）でしっかり締めるか、販売店に依頼してください。ボルトがゆるんでシートクッションがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

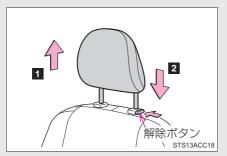
■背もたれの前倒しやシートクッションを取りはずす前に

●シートベルトバックルを必ず格納してください。

●背もたれを前倒しする前にヘッドレストを必ず取りはずしてください。

■背もたれをもとの位置にもどしたり、シートクッションを取り付けた後は

シートベルトバックルを正しい使用位置にもどす
各バックルは常にゴムバンドに通しておいてください。

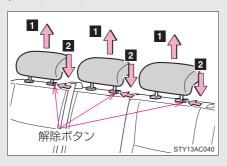
ヘッドレスト

▶ フロントシート

上下調整

1 上がる

2 下がる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ リヤシート

上下調整

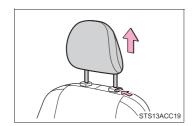
1 上がる

2 下がる

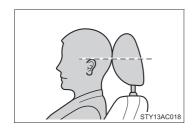
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

STS13ACC19

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■フロントヘッドレストの高さについて

STY13AC018

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤヘッドレストについて

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

STS13ACC07

● 肩部ベルトを肩に十分かける

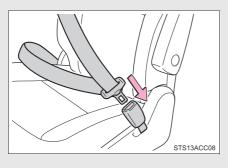
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

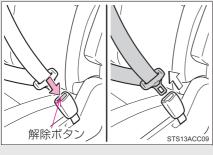
● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

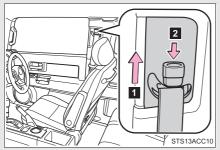
■ 着け方、はずし方

STS13ACC08

固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

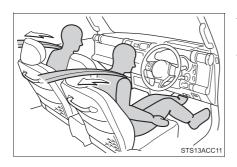
STS13ACC09

解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 アジャスターを上げる

2 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

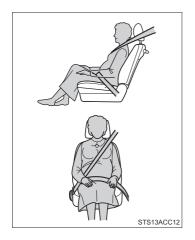
前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性の場合

STS13ACC12

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 52）

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- ●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 81)
- ●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 52)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- ●全員がシートベルトを着用する
- ●シートベルトを正しく着用する
- ●シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- ●お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- ●背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- ●肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- ●腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

⚠ 警告

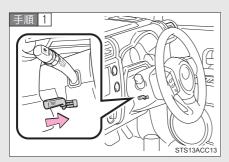
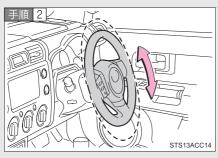
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを引く

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを離してハンドルを固定してください。

⚠ 警告

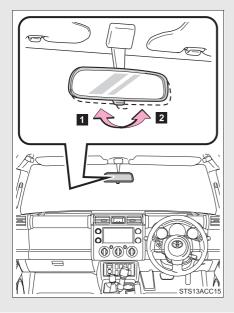
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

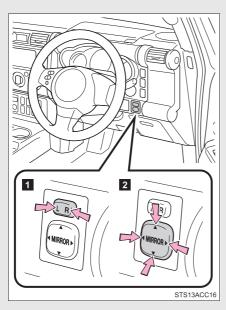
2 防眩時

⚠ 警告

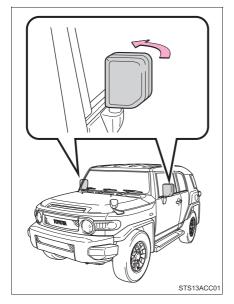
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

1 ミラーを選ぶ
（L：左、R：右）

2 スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

ドアミラーを格納するときは

ミラーを手で後方に押して格納する

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ ACC ”または“ ON ”のときミラーの角度調整ができます。

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 170）

警告

■**走行しているときは**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■**ミラーが動いているときは**

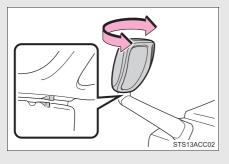
手をふれないでください。
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■**ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置

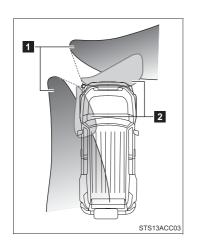
発進時またはごく低速時に、車両前面と助手席側車両側面を確認するときに役立ちます。

STS13ACC02

ミラーが動いてしまったときは、ミラー側の突起と台座側の突起の位置を合わせて、ミラーの位置をもどします。

知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

STS13ACC03

1 地面が視認できる範囲

2 地上約 1m の高さまで視認できる範囲

注意

■**補助確認装置について**

●補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。

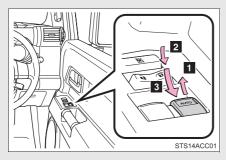
●車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

▶運転席

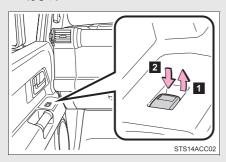
STS14ACC01

1 閉める

2 開ける

3 自動全開（運転席のみ）※

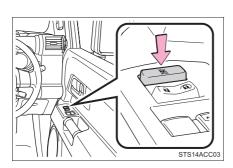
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶助手席

STS14ACC02

1 閉める

2 開ける

ウインドウロックスイッチ

STS14ACC03

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■エンジン OFF 後の作動

エンジンスイッチを“ACC"または“LOCK"にしたあとでも、約 43 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

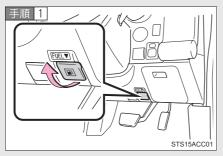
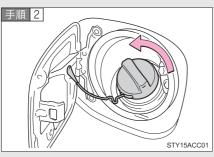
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないように声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

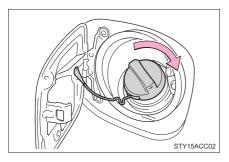
給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“ LOCK ”にしてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを引いて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

72 L

警告

■給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
  除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- ●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
  キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。
- ●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- ●気化した燃料を吸わないようにする
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- ●喫煙しない
  引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- ●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
  再び帯電する可能性があります。

⚠ 警告

■**給油時の注意**

● 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

● 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正品以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

● エンジンの始動性が悪くなる

● ノッキングが発生する

● エンジン出力が低下する

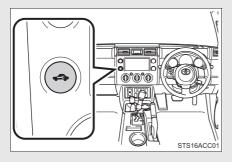
● 排気制御システムが正常に機能しない

● 燃料系部品が損傷する

● 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件に合った正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 42）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 42）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 42）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 57）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 50）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 52）

⚠ 警告

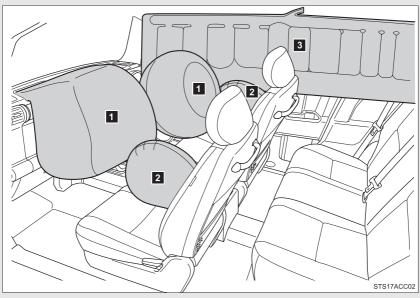
■走行中は

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- ●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- ●作動音と共に白いガスが発生します。
- ●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- ●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

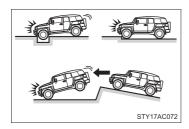
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- ●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような、衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐり込むような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- ●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

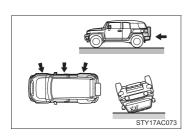
■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

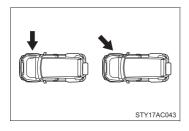
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

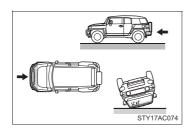
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

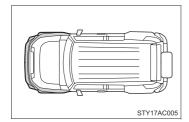
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

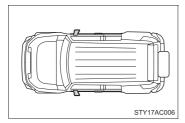
SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

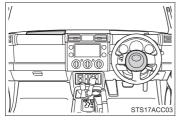
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

STY17AC005

●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STY17AC006

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

STS17ACC03

●ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

STS17ACC04

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
  (→P. 90)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

⚠ 警告

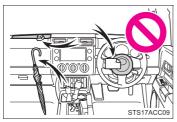
■SRS エアバッグについて

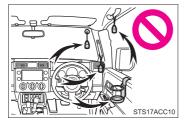
STS17ACC07

●ドアやフロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

STS17ACC08

●助手席やリヤ外側席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

STS17ACC09

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

STS17ACC10

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0　：10kg まで
グループ 0+　：13kg まで
グループ Ⅰ　：9 ～ 18kg
グループ Ⅱ　：15 ～ 25kg
グループ Ⅲ　：22 ～ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

▶ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0^+
に相当

▶チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0^+、Ⅰ
に相当

▶ジュニアシート

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲ
に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	UF
0^+（13kg まで）	×	U	UF
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF＊ 後ろ向き ×	U	UF
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF＊	U	UF
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF＊	U	UF

● 上表に記入する文字の説明

U ：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

× ：子供専用シートを取り付けることはできません。

＊ ：子供専用シートを取り付ける際は背もたれの角度を最前段位置にしてください。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置 リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きの子供専用シートに適しています。

IL ：ISOFIX 子供専用シートのリストに示す「特定自動車」、「限定」、または「準汎用」カテゴリーの子供専用シートに適しています。

× ：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用
0^+（13kg まで）	E	ISO/R1	トヨタ純正NEO G-Child ISO BABY	準汎用

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分に大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 83）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→P. 84）を確認して、適切なシートを選択してください。

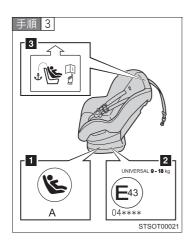
手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0+」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。
（例 2）：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

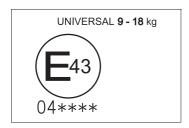
※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→P. 85）で指定されている製品を使用してください。

子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

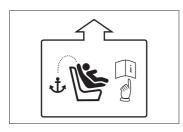
汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

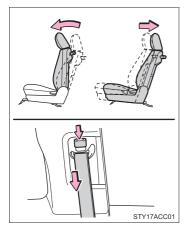
UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー（→P. 90）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートをいちばんうしろに下げる

●シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。
詳しくは子供専用シート製造業者、または販売業者におたずねください。

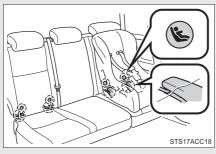
警告

■**子供専用シートを使用しない場合**

- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。

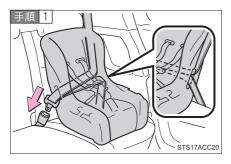
シートベルトによる取り付け
(→P. 92)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→P. 92)

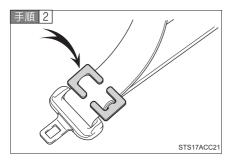
リヤシートの外側席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

トップテザーアンカー
(→P. 92)

テザーベルトを固定するときに使います。

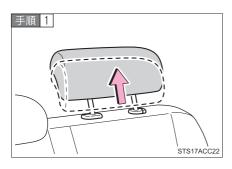
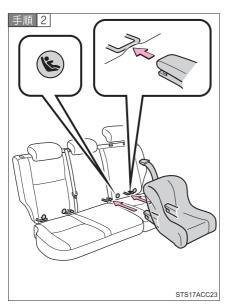
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

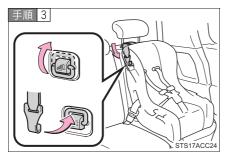
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備っていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ 品番：
73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストをいちばん上まで上げる

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

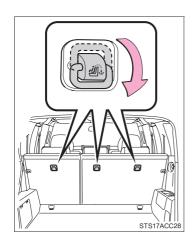
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。

トップテザーアンカーを上げて、アンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する

知識

■トップテザーアンカーを使用しないときは

トップテザーアンカーを下げる

トップテザーアンカーは、チャイルドシートのテザーベルトを固定するために設計されています。テザーベルトを固定する以外での使用はしないでください。

⚠ 警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. さまざまな状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 109

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 112）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 116）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 112）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 116）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 112）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4 エンジンスイッチを“ LOCK "にしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった状態となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアとバックドアガラスが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡に至るおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 270 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 113)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

●排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ブレーキをかけるときは**

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

警告

- ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■**万一脱輪したときは**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**運転中は**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■**駐車するときは**

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■**部品の損傷を防ぐために**

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

⚠ 注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルがとられる
- ●異常な音や振動がある
- ●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 248 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- ●エンストする
- ●電装品がショートする
- ●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは、必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ●ブレーキの効き具合
- ●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- ●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

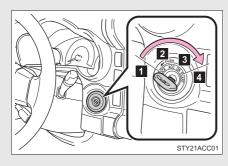
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジンスイッチを “ START ” の位置にまわす

■ エンジンスイッチの位置

1 “ LOCK ”（OFF）

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

2 “ ACC ”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

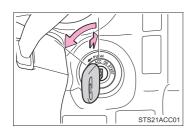
すべての電装品が使用できます。

4 “ START ”

エンジンが始動できます。

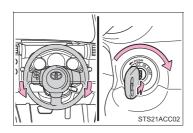
知識

■キーを“ ACC ”から“ LOCK ”にまわすには

STS21ACC01

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 2 キーを押し込みながら“ LOCK ”までまわす

■ステアリングロックを解除するには

STS21ACC02

ステアリングを左右に動かしながら、キーをまわしてください。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P. 69)

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ ACC ”または “ LOCK ”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**走行中の警告**

走行中はエンジンスイッチを“ LOCK ”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ ACC ”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

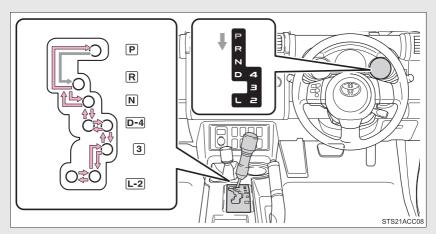
エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■**エンジンを始動するとき**

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションを選択してください。

■ シフトレバーの動かし方

エンジンスイッチが“ ON ”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
4	通常走行
3	坂道走行
2	下り坂走行
L	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき（装着車のみ）

シフトレバーを D から 4 へシフトダウンしても、エンジンブレーキは効きません。(→P. 134)

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 262

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。

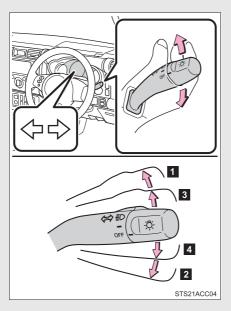
AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。

⚠ 警告

■ **すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

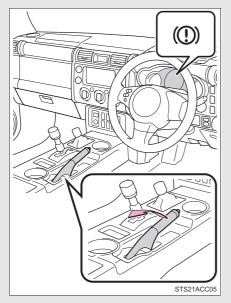
■作動条件

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

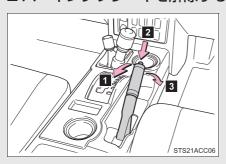
■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

■ パーキングブレーキをかける

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引き上げる。

ブレーキ警告灯が点灯します。

■ パーキングブレーキを解除する

1 レバーを少し引き上げる

2 ボタンを押す

3 完全にレバーを降ろす

知識

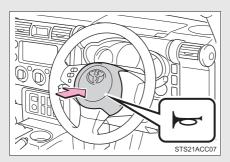
■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 159)の記載を参照してください。

注意

■**走行前の注意**

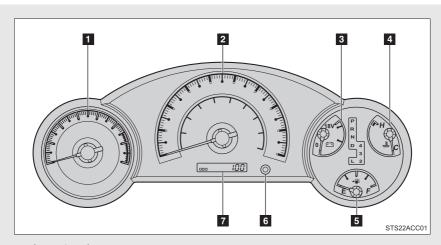
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの［ホーンマーク］周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 57）

計器類

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 電圧計

バッテリーの充電状態を示します。

4 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 オドメーター／トリップメーター切りかえボタン

→P. 120

7 オドメーター・トリップメーター

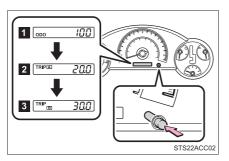
● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。
区間距離は、トリップA･トリップBの２種類で使い分けることができます。

表示の切りかえ

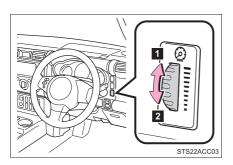
ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

1 オドメーター

2 トリップメーター A※

3 トリップメーター B※

※：押し続けると0にもどります。

メーター照度調整

ダイヤルをまわしてメーター照明の明るさを調整できます。

1 明るくなる

2 暗くなる

知識

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- トリップメーター A
- トリップメーター B

バッテリーを脱着後は、オドメーターが表示されます。

⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P. 267）

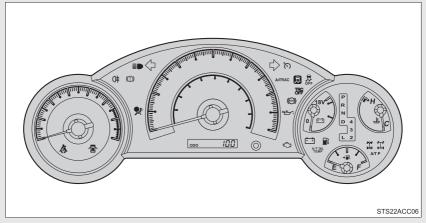
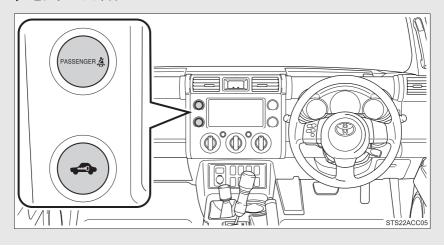
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター

STS22ACC06

▶ センターパネル

STS22ACC05

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→P. 115)

ヘッドライト
上向き表示灯(→P. 125)

(点滅)

セキュリティ表示灯
(→P. 69)

シフトポジション
表示灯(→P. 112)

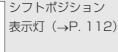
リヤフォグライト表示灯
(→P. 128)

クルーズコントロール
表示灯*(→P. 134)

※

(点滅)

スリップ表示灯
(→P. 147, 152)

※

VSC OFF 表示灯
(→P. 153)

A-TRAC 表示灯*
(→P. 147)

4WD 表示灯(→P. 144)

※

リヤデフロック作動
表示灯*(→P. 149)

※

TRC OFF 表示灯
(→P. 153)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 245)

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ ON ”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

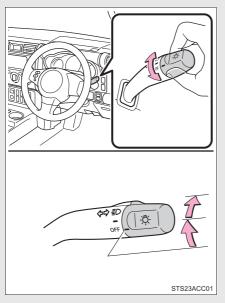
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

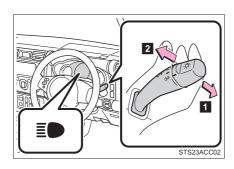
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

ヘッドライトなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにライトが点灯します。

━ 車幅灯・尾灯・番号灯を点灯

上記ライトとヘッドライトを点灯

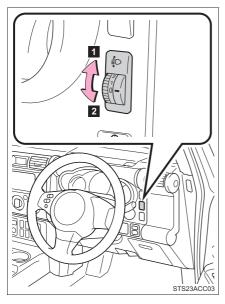
ハイビームにする

1 ライト点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。
レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	ラゲージルーム満載時	2
運転者	ラゲージルーム満載時	2

知識

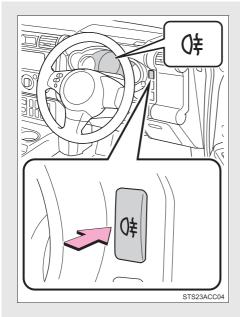
■ライト消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にして運転席ドアを開けると、ヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ ON ”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ▬ または ≣D の位置にします。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

リヤフォグライトスイッチ

スイッチを押して点灯する

もう一度押すと消灯します。

知識

■点灯条件

ヘッドライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

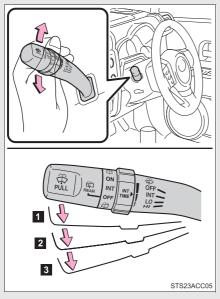
●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

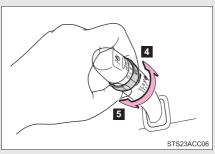
“ INT ” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。
ワイパーの間欠時間も調整できます。

STS23ACC05

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

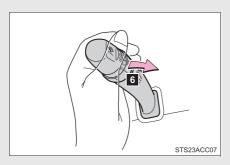
3 高速作動（HI）

STS23ACC06

4 間欠ワイパーの作動頻度（減）

5 間欠ワイパーの作動頻度（増）

6 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■フロントガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

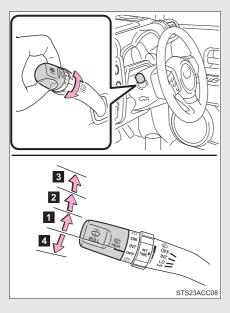
■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー(リヤ)＊

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動(INT)

通常作動を3回行ったあと間欠作動を行います。

2 通常作動(ON)

3 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

4 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが" ON "で、バックドアガラス(→P. 37)が閉まっているとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

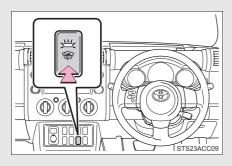
■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

フロントワイパーデアイサー*

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ON ／ OFF を切りかえる

フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

警告

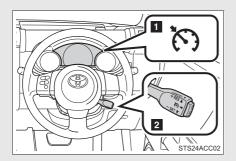
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

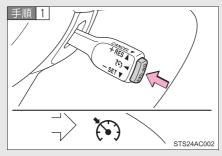
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

STS24ACC02

1 クルーズコントロール表示灯

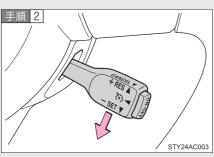
2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する

STS24AC002

ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

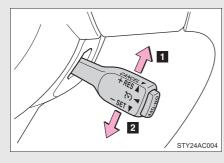
STY24AC003

希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変えるには

設定速度を変えるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

STY24AC004

1 速度を上げる

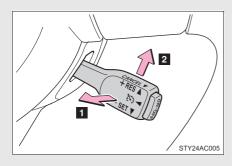
2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の速度になるまでレバーを保持する

設定速度は、次の通りに増減されます：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h
調整：レバーを保持する間

■ 定速走行を解除する・復帰させる

STY24AC005

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または４レンジのとき設定できます。

●速度は約 40 ～約 100 km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定速度にもどります。

●クルーズコントロールをキャンセルしなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40 km/h 以下になった

●VSC が作動した

■定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

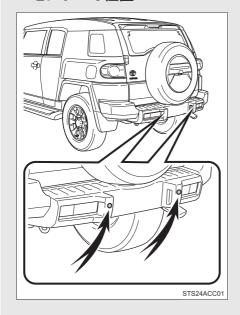
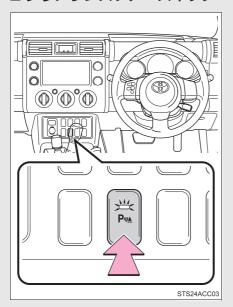
■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

クリアランスソナー

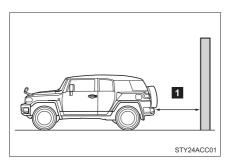
クリアランスソナーは、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、ブザー音で運転者にお知らせします。

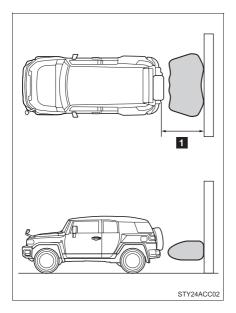
■ センサーの位置

■ クリアランスソナースイッチ

ON ／ OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーは ON になり、表示灯が点灯するとともにブザー音が鳴ります。

OFF にするには再びスイッチを押します。

距離表示の見方

クリアランスソナーが作動したとき、障害物と車両とのおおよその距離をブザー音でお知らせします。

車と障害物との距離 1	約 150 ～ 100 cm	約 100 ～ 50 cm	約 50 cm 以下
ブザー音	断続音	速い断続音	連続音

障害物を感知できる範囲

1 約 150cm

感知できる範囲は左図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチが“ON”のとき

●シフトレバーが R にあるとき

警告

■クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで速度を十分に制御し、ゆっくり運転してください。

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。

●センサーを手などで覆ったとき

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

●どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき

●車両姿勢が大きく傾いたとき

警告

●市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車に付けたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●標識などのものによっては感知距離が短くなります。

●バンパー真下付近は感知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●センサーに障害物が近付きすぎたとき

●バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■正確に感知できないことがある障害物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

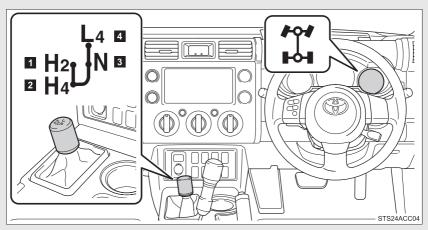
特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

4WD システム

トランスファーレバーを操作して駆動系の作動状態を切りかえます。

H4・N・L4 モードに切りかえるとメーターに 4WD 表示灯が点灯します。

1 H2（ハイレンジ 2WD)
市街地や高速道路などの乾燥した舗装路面を一般走行する場合に使用します。
通常はこの位置で使用します。

2 H4（ハイレンジ 4WD)
悪路・氷雪路・砂地など、すべりやすい路面を走行する場合に使用します。

3 N（ニュートラル）
動力の伝わらない状態。
この位置では走行できません。

4 L4（ローレンジ 4WD)
悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などでとくに大きな駆動力を必要とするときや急な降坂路を走行するときに使用します。

知識

■H2 と H4 の切りかえについて

- 速度を80 km/h以下にしてからトランスファーレバーをH2からH4に切りかえてください。外気温が低い場合は切りかえができないときがあります。そのときは速度をさらに低くするか、停止してから切りかえてください。
- H4からH2にトランスファーレバーを切りかえたときにメーターの4WD表示灯が消えないときは周囲の安全を確認して加減速または後退してください。

■H4 と L4 の切りかえについて

停車してからシフトレバーを N にしてトランスファーレバーを操作してください。H4 から L4 に切りかえたときは自動的に VSC が OFF になります。

■4WD 走行について

長期間 4WD 走行を行わないときは、前輪駆動部品のオイルを循環させるため、月に 1 回程度は 4WD 走行を行ってください。
4WD 走行を乾燥した舗装路面で行う場合は、周囲の安全を確認し、トランスファーレバーを H4 に切りかえてから徐行で数 m 程度まっすぐ走行してください。走行後は必ずトランスファーレバーを H2 に切りかえてください。

⚠ 警告

■走行中の警告

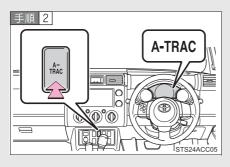
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
- 車両旋回中や車輪空転中は、トランスファーレバーの操作は行わないでください。
- タイヤが空転中に急激なブレーキ操作をしないでください。
- 乾燥した舗装路面および高速道路では必ずH2で走行してください。H4またはL4で走行すると駆動系部品に悪影響を与え、駆動系のオイルもれや焼きつきなどにより、思わぬ事故につながることがあります。また、タイヤの早期磨耗や燃料消費量の悪化につながることがあります。
- H4またはL4での急旋回は避けてください。急旋回した場合、タイトコーナーブレーキング現象（ブレーキをかけた状態と同じような現象）を起こし、運転しにくくなります。これは前・後輪の回転差のため起きる現象で、異常ではありませんが危険ですので避けてください。
- トランスファーレバーはH4またはL4の位置に確実に操作してください。H4またはL4の位置に入ってないと、動力が伝わらなかったり、坂道での駐車時にシフトレバーがPに入っていても車両が動き出すおそれがあります。

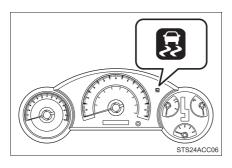
アクティブトラクションコントロール*

すべりやすい路面や険しいオフロードでの発進時や加速時に生じる車輪の空転を４輪別々に抑制すると共に、車両の方向安定性と駆動力を確保します。

■ 使用するときは

手順 1 停車してからシフトレバーを N にしてトランスファーレバーを L4 にする

A-TRAC スイッチを押す

A-TRAC 表示灯が点灯します。OFF にするには再びスイッチを押します。

アクティブトラクションコントロールが作動したときは

前後輪が空転したときは、アクティブトラクションコントロールの作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■リヤデフロック使用中は（リヤデフロック装着車）

アクティブトラクションコントロールは、約6 km/h以下でしか作動しません。

■アクティブトラクションコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- システムが作動すると、車体やハンドルに振動を感じますが、異常ではありません。

■アクティブトラクションコントロールを長時間作動すると

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザー音が鳴り、作動を自動的に中断します。（通常走行は可能です）

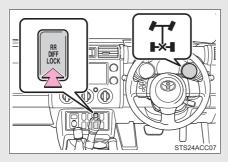
警告

■アクティブトラクションコントロールの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、アクティブトラクションコントロールが作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

リヤデフロック＊

リヤデフロックは、すべりやすい路面や凹凸のある路面でタイヤが空転するときにのみ使用する緊急脱出用の装置です。特に後輪が空転しているときに効果を発揮します。

■ リヤデフロックスイッチ

ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すと、リヤデフロック作動表示灯が数秒間点滅し、リヤデフロックが完了すると表示灯が点灯にかわります。

表示灯が点灯したら、システムが使用できます。

もう一度押すと、リヤデフロック状態が解除され、表示灯が消灯します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■リヤデフロックの使用手順

リヤデフロックを使用する前に、まず、脱出できそうな場合は、トランスファーレバーを L4 に切りかえて脱出を試みてください。それでも脱出できない場合は、リヤデフロックを使用してください。

●タイヤが止まっていることを確認してからロックしてください。

●脱出できたら、ただちにリヤデフロック状態を解除してください。

■リヤデフロック使用中は

リヤデフロック状態のときは、ABS 警告灯・VSC OFF 表示灯が点灯します。
また、ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC は作動しません。

■リヤデフロック状態自動解除機能

トランスファーレバーを H2 または H4 にすると、リヤデフロック状態が解除されます。
リヤデフロックスイッチが ON のまま走行を続けないでください。

■リヤデフロック使用後は

リヤデフロック作動表示灯・ABS 警告灯が消灯したことを確認してください。

■リヤデフロック作動表示灯について

●リヤデフの切りかえ作動中は表示灯が点滅します。

●リヤデフロックへ切りかえたときに、表示灯が点滅し続けた場合は、停車し操作をやり直してください。

以上を実施しても、表示灯が点滅し続けたときは、4WD システムに異常があるおそれがあります。この場合、リヤデフロックの切りかえはできません。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■リヤデフロックを使用するにあたって

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 一般走行中に使用しない

- 直進性が非常に強くなるため、舗装路では、非常に曲がりにくくなります。
- 雪や氷の路面では安定した旋回ができなくなります。
- 片側のタイヤのみがすべりやすい路面にある場合、減速時や加速時に車両の向きが急にかわりやすくなります。

● 空転が止まるまで使用しない。

● リヤデフロック状態では、 8 km/h 以上で走行しない。

● リヤデフロックの使用後はすぐにスイッチをOFFにし、スイッチをONにしたまま走行しない。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

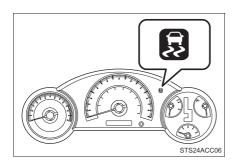
■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

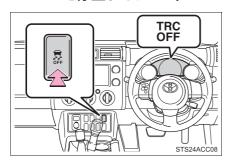
すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

TRC・VSC が作動しているとき

STS24ACC06

車両が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したときは、VSC･TRC の作動を表示するために、スリップ表示灯が点滅します。

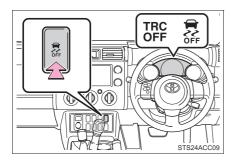
TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには（H4 モード時）

TRC を停止するには、スイッチを押します。

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには（H2 または H4 モード時）

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にした場合でも、エンジンを再始動すると自動的にTRCと VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、速度が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、速度による作動再開はありません。

■TRC が長時間作動すると

ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り、メーターに TRC OFF 表示灯が点灯し、機能が自動的に作動停止します。（通常走行は可能です）
しばらくして、TRC OFF 表示灯が消えれば TRC が作動可能になります。

■スリップ表示灯が点灯しているときは

VSC・TRC のいずれかのシステムに異常があります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - 車体やハンドルに振動を感じる
  - 車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

警告

■**ABS の効果を発揮できないとき**

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■**ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**スリップ表示灯が点滅しているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したときは特に慎重に運転してください。

⚠ 警告

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 277）
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

● できるだけ荷物はラゲージルームに積む

● 荷物が安全な位置に置かれているか確認する

● 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む

● 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル･アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・ 運転席足元
・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード
・ フタのない小物入れ／トレイ

⚠ 警告

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ 冷却水
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
  （タイヤについて：→P. 200）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、速度を控えて走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については、次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後２輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0 km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル・急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

● トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

● アルミホイール装着車：アルミホイールにタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷が付くことがあります。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. オーディオの使い方

3-3. 室内灯のつけ方

3-4. 収納装備の使い方

3-5. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン

エアコンの設定

■ 温度をかえるには

温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす。

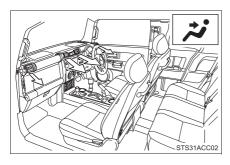
が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

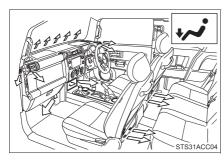
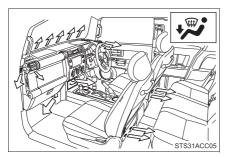
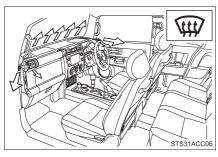
■ 風量をかえるには

風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす。
送風を止めるときはダイヤルを OFF の位置に合わせる。

■吹き出し口を切りかえるには

吹き出し口切りかえダイヤルをまわし、吹き出し口を選ぶ。

ダイヤル位置を各吹き出し口のあいだにすると吹き出し口を細かく選択できます。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

ガラスの曇りを取る

自動的に外気導入に切りかわります。

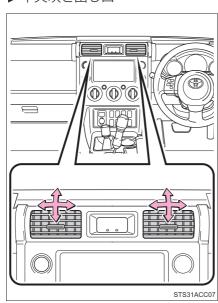
A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

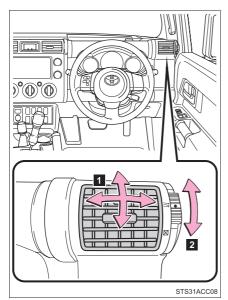
■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

ボタンを押すごとに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶中央吹き出し口

風向きの調整

▶左右吹き出し口

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■外気温度が 0 ℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ の作動表示灯が点滅しているときは

A/C をいったん OFF にして、再度 ON にしてください。作動表示灯が点灯すれば使用できます。点滅したままの場合は、システムの異常が考えられますので、A/C を OFF にして、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

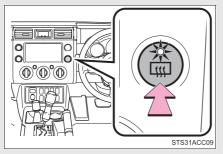
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラー※から雨滴や霜を取るときにご使用ください。

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーは、約15分で自動的にOFFになります。外気温などの状況によっては、作動時間が長くなります

※ ミラーヒーター装着車

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ ON ”のとき

■ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

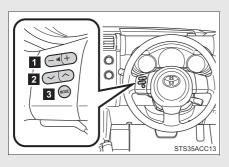
■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

ステアリングスイッチ

トヨタ販売店で装着したナビゲーションシステムや、オーディオを操作することができます。

モードの切り替えや CD、ラジオなどの操作については、装着されたオーディオにより異なる場合や、操作できない場合があります。

販売店オプションのナビゲーションシステムや、オーディオの操作方法は、各取扱書をご覧ください。

1 音量を調節する
2 CD、ラジオなどの操作
3 電源を入れる、モードを切り替える

3
室内装備の使い方

電源を入れる

(MODE) を押す

スイッチを長押しするとオーディオの電源が OFF になります。

・ 装着されたオーディオにより“ピッ”と音が鳴ることがあります。

モードを切り替える

電源が ON のとき (MODE) を押す

押すごとにモード（CD、ラジオなど）が切り替わります。

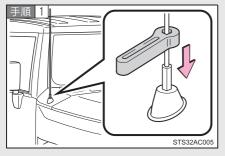
音量を調節するには

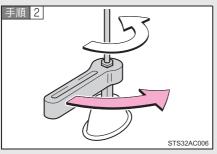
(−◀(＋) の＋またはーを押す

スイッチを押し続けると、音量を連続して調節できます。運転のさまたげにならない適度な音量でお聞きください。

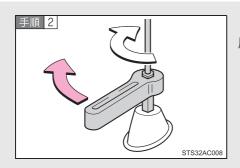
アンテナ

アンテナを取りはずすことができます。

■ アンテナの取りはずし

付属のレンチをアンテナに取り付ける

レンチはグローブボックスに収納されています。

レンチでアンテナをゆるめ、取りはずす

■ アンテナの取り付け

固定されるまでアンテナを手で締める

レンチで 1/8 回転（20 ～ 45 度）させてしっかり締める

締め付けたあとは、レンチをアンテナから取りはずしてください。

知識

■レンチについて

付属のレンチを使用したあとは、なくさないようにグローブボックスに保管してください。

注意

■アンテナの損傷を防ぐために

次のような場合は、アンテナを取りはずしてください。

- 自動洗車機を使うとき
- 車庫の天井などにアンテナが接触するとき
- カーカバーをかけるとき

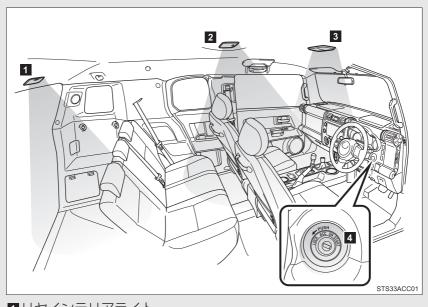
■アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

⚠ 注意

■レンチの使用について

- アンテナの取り付け･取りはずしをするときは、付属のレンチを使用してください。
- ボディーを傷つけないように注意して使用してください。
- アンテナを締め付けすぎないように取り付けてください。
締め付けすぎると、アンテナが破損するおそれがあります。
- アンテナの取り付け･取りはずしをするために、付属のレンチ以外は使用しないでください。アンテナ表面を傷つけるおそれがあります。

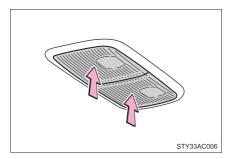
室内灯一覧

1 リヤインテリアライト

2 フロントインテリアライト

3 パーソナルライト

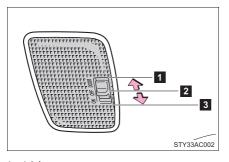
4 エンジンスイッチ照明

パーソナルライト

STY33AC006

ライトを点灯・消灯する

インテリアライト

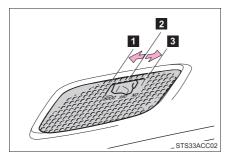
▶フロント

STY33AC002

1 ドアポジション（ドア連動）

2 OFF

3 ON（点灯）

▶リヤ

STS33ACC02

1 ドアポジション（ドア連動）

2 OFF

3 ON（点灯）

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、インテリアライト※が自動的に点灯・消灯します。

※インテリアライトの両方共に、スイッチの位置がドアポジションのときに作動します。

■自動消灯機能

- パーソナルライトが点灯したままの場合、エンジンスイッチからキーが抜かれると約 30 分後に自動消灯します。
- 半ドア状態でインテリアライトスイッチがドアポジションのときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 30 分後に自動消灯します。

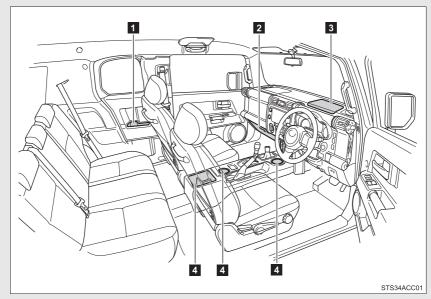
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 279)

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

収納装備一覧

1 ボトルホルダー

2 グローブボックス

3 小物入れ

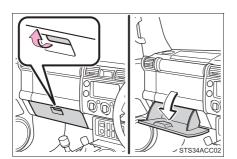
4 カップホルダー

⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

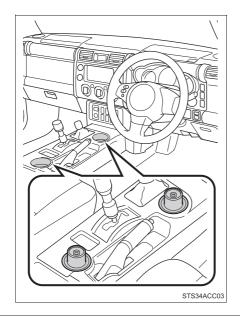
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

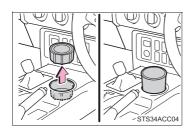
グローブボックス

レバーを引き上げる

⚠ 警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

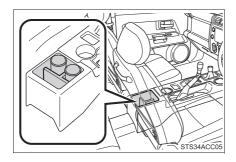
フロントカップホルダー

知識

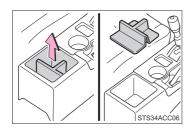
■カップホルダーのサイズを変更したいときは

カップホルダーのアダプターを取りはずすことができます。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

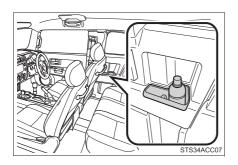
リヤカップホルダー

知識

■仕切りを取りはずすには

ベース部分を持って仕切りを引き上げます。

警告

■**収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダー

知識

■**ボトルホルダーについて**

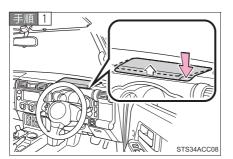
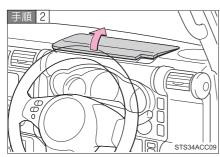
●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

■**収納してはいけないもの**

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

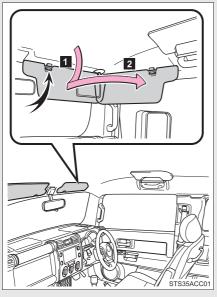
小物入れ

ボタンを押す

フタを持ち上げる

警告

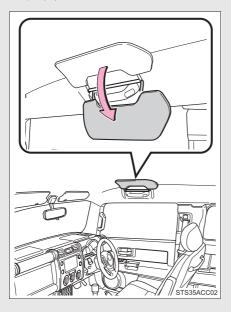
■走行中の警告

小物入れのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

サンバイザー

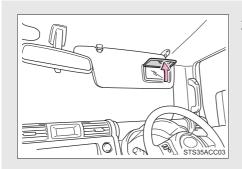
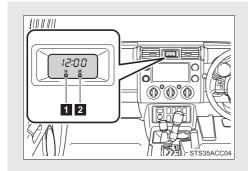
▶フロント

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

▶サイド

バイザーを下ろす

バニティミラー

カバーを開ける

時計

1 “時” を調整する

2 “分” を調整する

知識

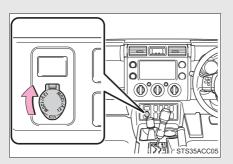
■時刻が表示されるとき

エンジンスイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

アクセサリーソケット

12V/10A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタの下側を引き上げて開ける

知識

■使用条件

エンジンスイッチが“ ACC ”または“ ON ”のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V/10A をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アームレスト

角度の調整：

手順 1 アームレストを一度一番上まで上げ、その後一番下まで下げる

手順 2 お好みの位置までアームレストを上げる

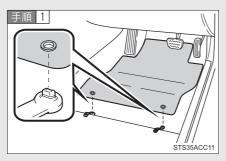
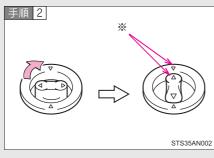
アームレストが固定されると、下げることはできなくなります。下げたいときは一度一番上まで上げてください。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。

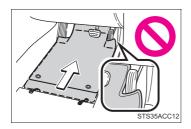
固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

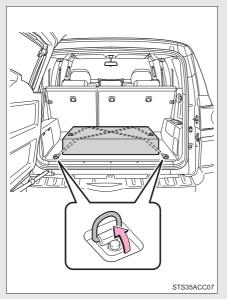
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

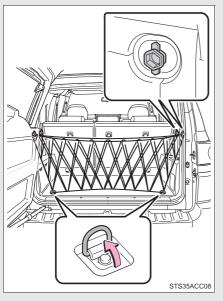
ラゲージルーム内装備

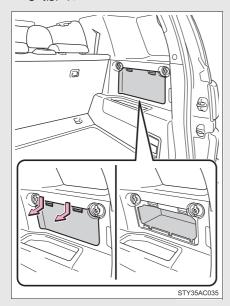
■ デッキフック

STS35ACC07

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

■ フック

STS35ACC08

積荷ネットや買い物袋などをかけるフックです。

■小物入れ

ツメを押しながらフタを手前に開き、取りはずす

⚠ 警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

■走行中の警告

小物入れのフタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■フックについて

- とくに重たいものや大きなものをフックに吊り下げないでください。
  フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。
  最大荷重：4 kg
- 積荷ネットと買い物袋などを一緒に吊り下げないでください。
  フックにきちんとかからず、走行中にはずれたりするおそれがあります。

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおり取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
  近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■アルミホイール（アルミホイール装着車）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパー、サイドモールディングおよびオーバーフェンダー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを取りはずしてください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 72)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の注意をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

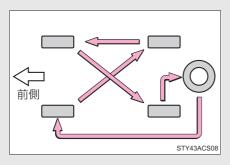
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

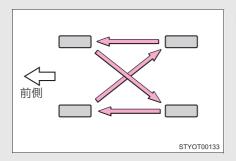
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

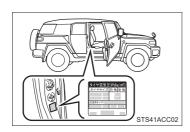
▶265/70R17 115S 装着車

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶245/60R20 107H 装着車

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm²)]	
	前輪	後輪
265/70R17 115S	220(2.2)	220(2.2)
245/60R20 107H	220(2.2)	220(2.2)
応急用タイヤ (245/60R20 107H 装着車) 265/70R17 115S	220(2.2)	220(2.2)

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

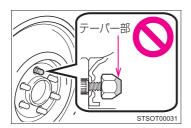
- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

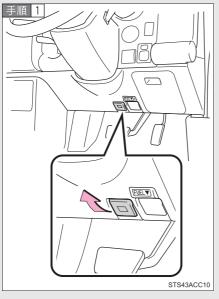
■走行中に空気もれが起こったら

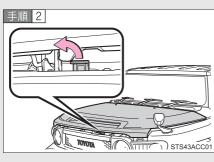
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引きあげて、ボンネットを開ける

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを“ LOCK ”にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

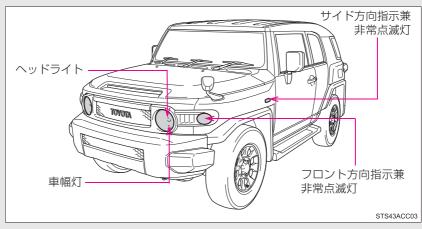
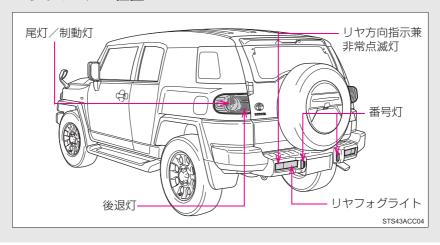
- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
  - ・ロッド部を軍手などでふれない
  - ・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
  - ・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

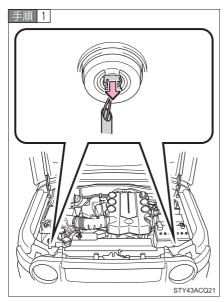
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P. 277）

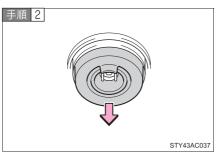
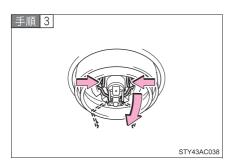
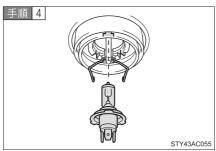
■ フロントのバルブ位置

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

■ヘッドライト

コネクターを取りはずす

ゴムカバーを取りはずす

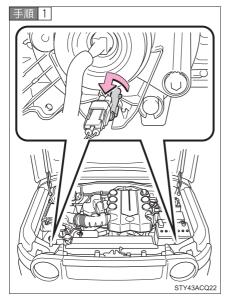
手順 3

留め金を取りはずす

手順 4

電球を取りはずす

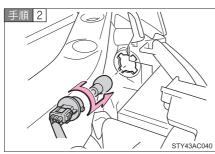
新しい電球を取り付けるときは、電球と取り付け穴の切り欠きを合わせてください。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 車幅灯

ソケットを取りはずす

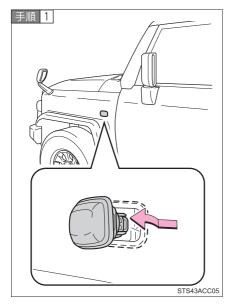
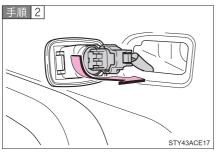
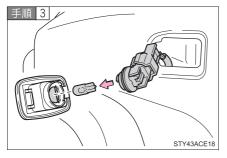
電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントト方向指示兼非常点滅灯

手順 1 ソケットを取りはずす

手順 2 電球を取りはずす

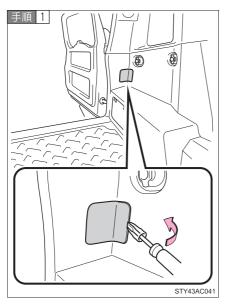
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイド方向指示兼非常点滅灯

手順 1 ライト本体を取りはずす

手順 2 ソケットを取りはずす

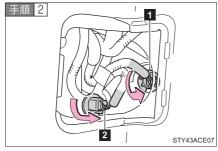
手順 3 電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 尾灯／制動灯・後退灯

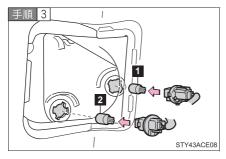
STY43AC041

手順 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

STY43ACE07

手順 2 ソケットをはずす

1 尾灯／制動灯

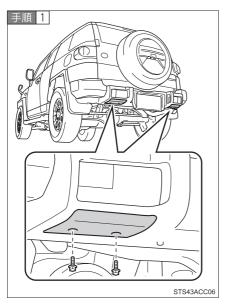
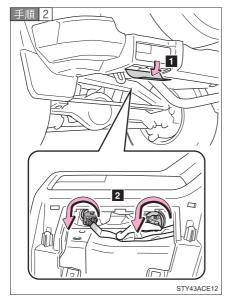
2 後退灯

STY43ACE08

手順 3 電球を取りはずす

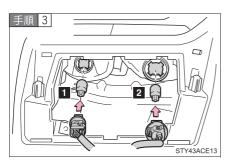
1 尾灯／制動灯

2 後退灯

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯／リヤフォグライト

ボルトを取りはずす

1 カバーを開ける

2 ソケットを取りはずす

手順 3

電球を取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

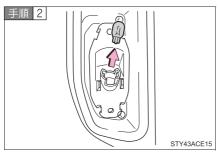
2 リヤフォグライト

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

手順 1

ネジをはずしてカバーを取りはずす

手順 2

電球を取りはずす

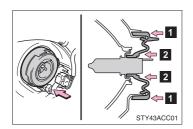
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ その他の電球

ハイマウントストップライトの電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■ヘッドライトのゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■番号灯のカバーを取り付けるときは

必ずパッキンをもとどおりに取り付けてください。パッキンが正しく取り付けられていないと、水が入る原因になります。

■ハイマウントストップライトについて

ハイマウントストップライトは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ライト内に水がたまっている

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

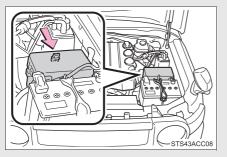
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

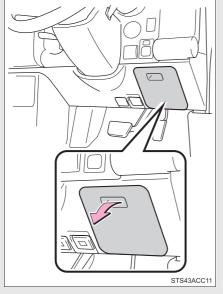
ヒューズの点検・交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 エンジンスイッチを“ LOCK ”にする

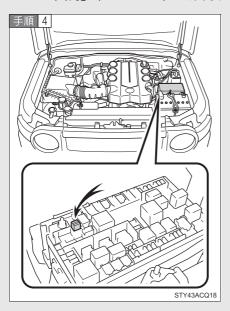
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

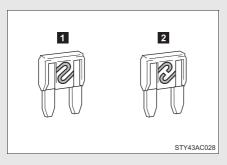
▶運転席足元

カバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 220)で確認する

手順 4

STY43ACQ18

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

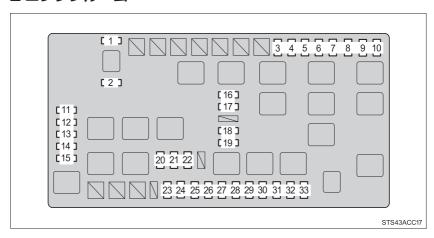
手順 5 ヒューズが切れていないか点検する

STY43AC028

1 正常

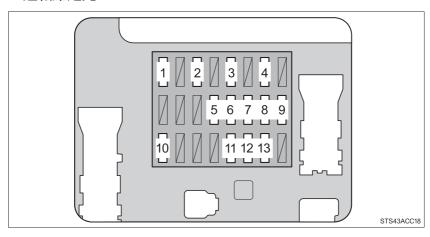
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	SPARE	–	予備ヒューズ
2	SPARE	–	予備ヒューズ
3	TOWING TAIL	15 A	未使用
4	RR FOG	10 A	リヤフォグライト
5	OFFROAD LP	15 A	未使用
6	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、ABS、TRC、アクティブトラクションコントロールシステム、VSC、燃料噴射システム、シフトロック
7	DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
8	AUX LP	15 A	未使用
9	TOWING BRK	30 A	未使用
10	OBD	7.5 A	ダイアグノーシス
11	HEAD (LO RH)	10 A	ヘッドライト（右）
12	HEAD (LO LH)	10 A	ヘッドライト（左）
13	HEAD (HI RH)	10 A	未使用

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
14	HEAD (HI LH)	10 A	未使用
15	EFI NO.2	10 A	燃料噴射システム
16	INJ	10 A	燃料噴射システム
17	DRL	7.5 A	未使用
18	DEFOG	30 A	リヤウインドウデフォッガー
19	DEFOG NO.2	10 A	燃料噴射システム
20	DOME	10 A	インテリアライト、パーソナルライト、エンジンスイッチ照明、時計、メーター
21	RADIO NO.1	20 A	オーディオ
22	ECU-B	10 A	エアコン、メインボデー ECU、SRS エアバッグシステム
23	ALT-S	7.5 A	充電系
24	AI-VSV	10 A	AI システム
25	HORN	10 A	ホーン
26	A/F HEATER	15 A	燃料噴射システム
27	TRN-HAZ	15 A	方向指示灯、非常点滅灯
28	ETCS	10 A	燃料噴射システム
29	EFI	20 A	EFI NO.2、燃料噴射システム
30	TOWING NO.2	30 A	未使用
31	DR/LCK	20 A	ドアロック、メインボデー ECU
32	TOWING	15 A	未使用
33	RADIO NO.2	20 A	オーディオ

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IGN	10 A	燃料噴射システム、ABS、VSC、TRC、アクティブトラクションコントロールシステム、SRS エアバッグシステム
2	GAUGE	7.5 A	メーター
3	WIP	20 A	ワイパー＆ウォッシャー
4	4WD/DIFF	20 A	4WD システム、リヤデフロック
5	ACC SKT	15 A	アクセサリーソケット
6	IG1 NO.2	10 A	エアコン
7	WSH	20 A	ワイパー＆ウォッシャー、メインボデー ECU
8	ECU-IG	10 A	ABS、VSC、TRC、アクティブトラクションコントロールシステム、バックドアロック、シフトロック、メインボデー ECU
9	IG1	10 A	方向指示灯、充電系、ABS、VSC、TRC、アクティブトラクションコントロールシステム、後退灯、クリアランスソナー、リヤデフロック、メーター
10	STA	7.5 A	始動系、アクセサリーソケット

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
11	PANEL	7.5 A	スイッチ照明
12	TAIL	10 A	尾灯、番号灯、車幅灯、メーター照明、照明系
13	ACC	7.5 A	シフトロック、ドアミラー、オーディオ、アクセサリーソケット、時計、メインボデーECU

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 207)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

⚠ 警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■**ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

キーの電池交換

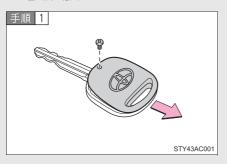
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- 小さいプラスドライバーなど
- リチウム電池 CR2016

■ 電池交換のしかた

手順 1

STY43AC001

ネジをはずして、カバーを取りはずす

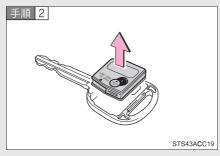
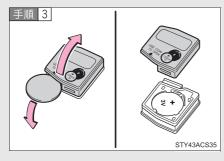
矢印の方向に押してカバーを取りはずしてください。

手順 2

STS43ACC19

モジュールを取り出す

手順 3

STY43ACS35

コインなどを使用してモジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

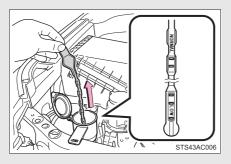
次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
　錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

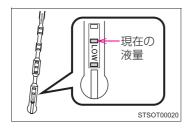
●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

STS43AC006

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給する

知識

■ゲージの使い方

STSOT00020

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くおそれがあります。

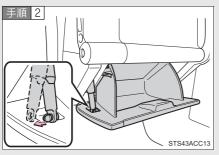
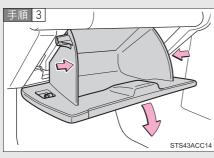
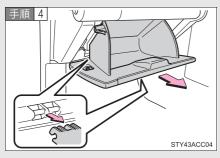
■ **ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

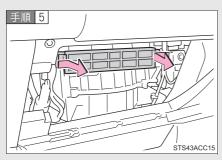
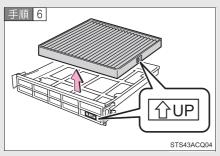
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 エンジンスイッチを“ LOCK ”にする

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

グローブボックスの側面を内側に押してたわませながら上部のツメを片側ずつはずす

下部のツメをはずしてグローブボックスを取りはずす

手順 5

フィルターケースを取りはずす

手順 6

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■**エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

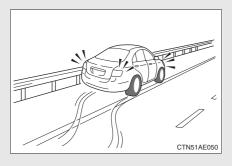
トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに下記の指示に従ってください。

非常点滅灯（→P. 236）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

● 同乗者を避難させる

● 車両の50 m以上後方に発炎筒（→P. 237）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

● その後、ガードレールの外側などに避難する

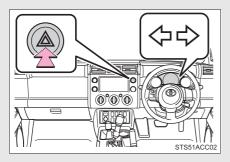
知識

■停止表示板・停止表示灯について

表示してある有効期限が切れる前に、新しいものに交換してください。

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯

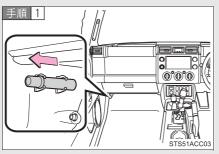
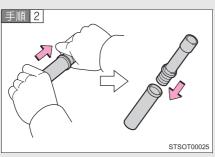
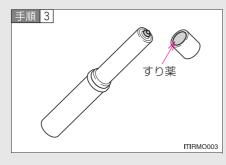
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

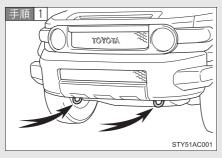
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは

手順 1

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

手順 2

25 m 以内
5 m 以内
けん引方向
白い布
STS51ACC01

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ ACC ”または“ ON ”にしてください。

手順 4 けん引される車両のトランスファーレバーを H2 にする

手順 5 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意し、ロープをたるませないようにしてください。

けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

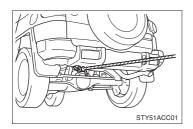
- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する

STY51ACC01

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

警告

■**車両を運搬するときは**

駆動系部品が故障したと思われるときは、必ず４輪を持ちあげて運搬してください。

■**けん引中の運転について**

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、間違った車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジンスイッチを“ LOCK ”にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなったりします。

⚠ 注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ●ワイヤーロープは使用しない
- ●速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- ●前進方向でけん引する
- ●サスペンション部などにロープをかけない

上記の速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。これらの場合は、車両積載車などにより 4 輪とも持ち上げて運搬してください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システム作動後にエンジンを再始動するには

システムが作動したあと、エンジンを再始動するには、次の手順に従ってください。

手順 1 エンジンスイッチを“ ACC ”または“ LOCK ”にする

手順 2 エンジンを再始動する

⚠ 注意

■ **エンジンを始動する前に**

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持するためのコンピュータを搭載しています。このコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断すると共に、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・表示灯	警告灯／表示灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） ・VSC システム異常 ・TRC システム異常
A/T OIL TEMP	**オートマチックトランスミッション油温警告灯** オートマチックトランスミッションフルードの油温異常
A/T P	**パーキングシステム警告灯** オートマチックトランスミッションのパーキングシステム異常
	クルーズコントロール表示灯＊（点滅したままのとき） クルーズコントロールの異常（→P. 136）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドア、またはバックドアガラスが確実に閉まっていない	全ドア・バックドアガラスを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 11 L 以下になった	燃料を補給する
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま速度が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

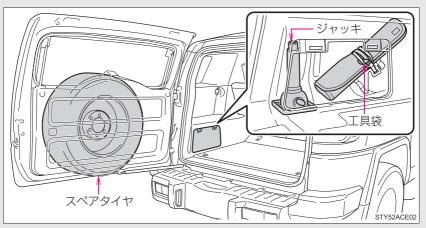
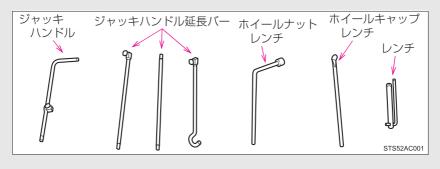
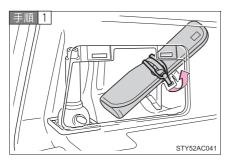
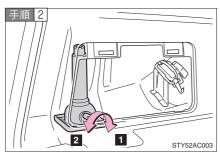
●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は、P. 200 を参照してください)

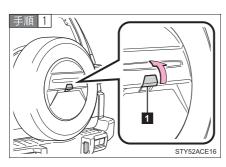
■ ジャッキで車体を持ちあげる前に

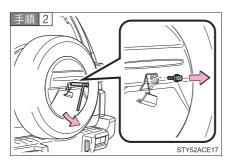
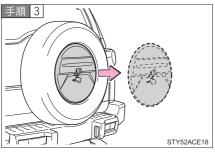
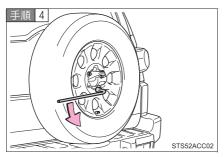
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具・ジャッキ・スペアタイヤの位置

■ 工具

ジャッキ・工具の取り出し方

フタを取りはずし、固定バンドをはずす

ジャッキをゆるめて取りはずす

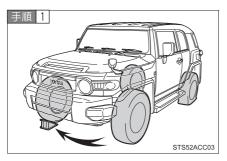
1 締まる

2 ゆるむ

スペアタイヤの取り出し方

ボルトカバーを取りはずす

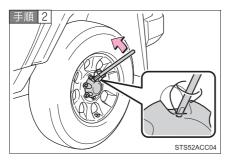
1 ボルトカバー

レンチを使用してホイールカバーのボルトを取りはずす
(→P. 248)

ホイールカバーを取りはずす

ナットをゆるめて、スペアタイヤを取りはずす

パンクしたタイヤの交換

STS52ACC03

輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

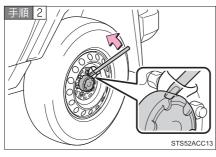
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

▶アルミホイール装着車

STS52ACC04

センターオーナメントをはずす

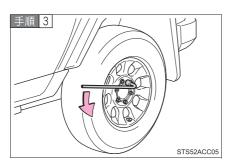
ホイールキャップレンチを図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

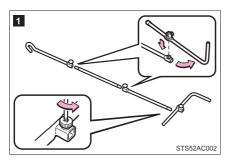
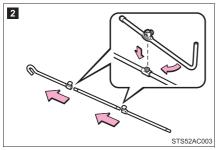
▶スチールホイール装着車

STS52ACC13

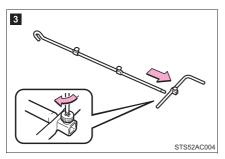
センターオーナメントをはずす

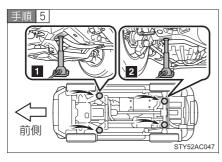
ホイールキャップレンチを図のように挿し込んで、センターオーナメントをはずします。

傷が付くのを防ぐため、図のように布などを巻いて保護してください。

ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

手順 4 ジャッキハンドルを組み付ける

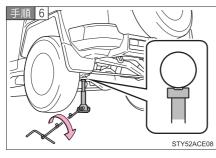
工具袋からジャッキハンドル・ジャッキハンドル延長バー・ジャッキハンドルバーを取り出し、次の手順で組み付けます。

1 ボルト (2 本)・ネジ部 (1 ヵ所) をジャッキハンドルおよびドライバーを使用してゆるめる

2 ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルバーを組み付け、ボルト (2 本) を締め付ける

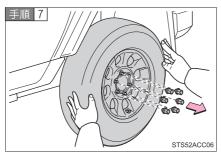
ボルトがしっかりと固定されていることを確認します。

3 ジャッキハンドル延長バーとジャッキハンドルを組み付け、ネジ部 (1ヵ所) を締め付ける

ネジ部がしっかりと固定されていることを確認します。

組み付けたジャッキハンドルをジャッキ穴部に挿し込みジャッキセット位置にジャッキをかける

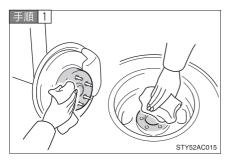
1 フロント

2 リヤ

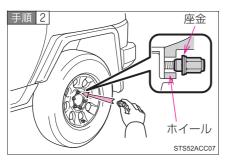
ジャッキは平らな位置にセットしてください。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

リヤアクスルハウジングにジャッキをセットするときは、ジャッキ上部の溝と、ハウジングを合わせるようにしてください。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

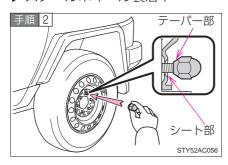
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。

タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

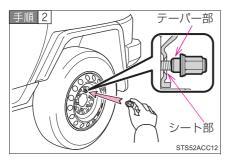
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

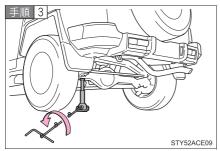
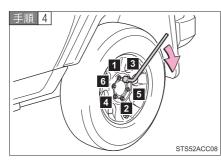
▶17 インチアルミホイール装着車

タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわします。

▶スチールホイール装着車

タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

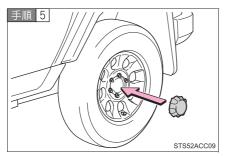
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

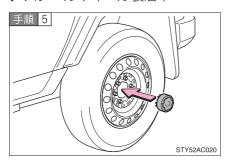
▶20 インチアルミホイール装着車

タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

113 N・m（1152 kgf・cm）

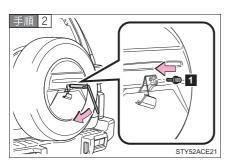
▶ 17 インチアルミホイール装着車

センターオーナメントを取り付ける

▶ スチールホイール装着車

センターオーナメントを取り付ける

タイヤ・ジャッキ・工具の収納

手順 1 取りはずしたときと逆の手順でパンクしたタイヤを取り付ける

締め付けトルク：

60 N・m（611 kgf・cm）

取りはずしたときと逆の手順でホイールカバーを取り付ける

1 ボルトを締め付ける

締め付けトルク：

14 N・m (140 kgf・cm)

手順 3 工具・ジャッキをもとどおりに収納する

知識

■スペアタイヤについて

- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 277)
- 20 インチアルミホイール装着車は、応急用タイヤになります。できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
・センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため
タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがありま
す。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 113 N・m（1152 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
（→P. 203）

■**応急用タイヤを使用するときは（245/60R20 107H 装着車）**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ブレーキ・急減速・急旋回は避けてください。

■**スペアタイヤを収納するときは**

ボディとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

警告

■応急用タイヤ装着中は（245/60R20 107H 装着車）

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ●ABS
- ●ブレーキアシスト
- ●VSC
- ●TRC
- ●アクティブトラクションコントロール*
- ●クルーズコントロール*
- ●クリアランスソナー

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ●4WD システム

■応急用タイヤ使用時の速度制限（245/60R20 107H 装着車）

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■工具・ジャッキを使用したあとは

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着（245/60R20 107H 装着車）

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 109）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 109）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 69）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 264）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 264）

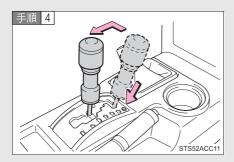
処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 エンジンスイッチを“ ACC ”または“ ON ”にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

キーをなくしたときは

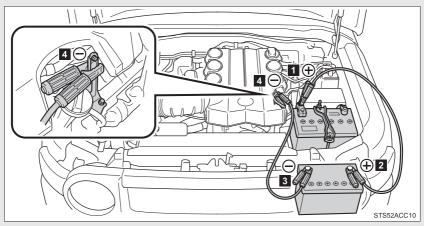
キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
(→P. 24)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開ける（→P. 204）

手順 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ ON ”にしてから、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させせない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体に付着しないようにする

●必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを停止する。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

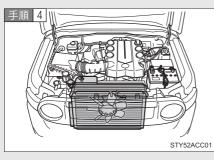
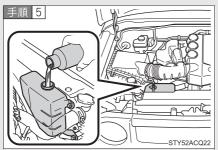
エンジンをかけたまま、注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを停止する

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水もれを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

次の状態がオーバーヒートです。

- ●メーター内の水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- ●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- ●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- ●ボンネット（→P. 204）の注意事項も併せてお読みください。
- ●エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

TRC・VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 153)

警告

■**脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

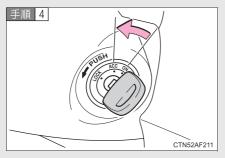
手順 2 シフトレバーを N に入れる。

▶シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する

▶シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4 エンジンスイッチを " ACC " にして、エンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正オイル・液類以外を使用される場合は、トヨタ純正オイル・液類に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	72

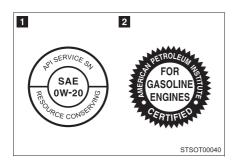
エンジンオイル

銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN 0W-20※2 （API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイル SN 5W-20 （API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20） トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 （API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル SN 10W-30 （API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30） トヨタ純正モーターオイル SM 0W-20 （API SM, EC SAE 0W-20） トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 （API SM, EC SAE 5W-30） トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 （API SM, EC SAE 10W-30）	5.7	6.1

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖気後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

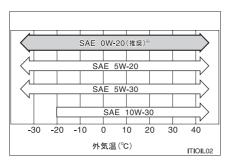
※2 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

● 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

● 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% −12 ℃ 濃度 50% −35 ℃	9.8

オートマチックトランスミッション

銘柄	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	10.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

<table>
<tr><th>銘柄（推奨粘度）</th><th colspan="2">項目</th><th>容量 [L]
(参考値)</th></tr>
<tr><td rowspan="3">トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT
(API GL-5 SAE 75W-85)</td><td colspan="2">フロント</td><td>1.55</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リヤ</td><td>ノーマル</td><td>2.50</td></tr>
<tr><td>デフロック付き</td><td>2.45</td></tr>
</table>

トランスファー

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正トランスファーギヤオイル LF (SAE 75W)	1.0

パワーステアリング

銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.0

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※1	54

※1 エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 196N（20kgf）のときのノッチ数 ※2	5 ～ 7

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)	
		前輪	後輪
265/70R17 115S	17 × 7.5J	220 (2.2)	220 (2.2)
245/60R20 107H	20 × 7J	220 (2.2)	220 (2.2)
応急用タイヤ (245/60R20 107H 装着車) 265/70R17 115S	17 × 7.5J	220 (2.2)	220 (2.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト	60 ／ 55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21 ／ 5
	車幅灯	5
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	16
	制動灯／尾灯	21 ／ 5
	後退灯	16
	リヤフォグライト	21
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	パーソナルライト	8
	フロントインテリアライト	8
	リヤインテリアライト	8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GSJ15W	1GR-FE（4.0L ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="7">ワイヤレスドアロック
（→P. 25）</td><td>ワイヤレス機能</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td rowspan="2">解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間</td><td rowspan="2">30 秒</td><td>60 秒</td></tr>
<tr><td>120 秒</td></tr>
<tr><td>作動の合図（非常点滅灯）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>作動の合図（ブザー）</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>半ドア警告ブザー</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">イルミネーション
（→P. 175）</td><td rowspan="2">消灯までの時間</td><td rowspan="2">15 秒</td><td>7.5 秒</td></tr>
<tr><td>30 秒</td></tr>
<tr><td>エンジンスイッチ“ LOCK ”後の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>解錠時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4 ホイールドライブ
A ／ C	エアコン
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
A-TRAC	アクティブトラクションコントロール
ECU	エレクトリックコントロールユニット
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

■ メーター

■ センターパネル

■ 警告一覧

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量 (参考値)</td><td colspan="3">72L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td colspan="3">無鉛レギュラーガソリン</td></tr>
<tr><td rowspan="5">タイヤが冷えているときの空気圧</td><td>タイヤサイズ</td><td>前輪</td><td>後輪</td></tr>
<tr><td>265/70R17 115S</td><td colspan="2" rowspan="3">220(2.2)kPa(kg/cm²)</td></tr>
<tr><td>245/60R20 107H</td></tr>
<tr><td>応急用タイヤ
(245/60R20 107H 装着車)
265/70R17 115S</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量
(参考値)</td><td colspan="3">オイルのみ交換時 5.7L
オイルとフィルター交換時 .... 6.1L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td colspan="3">トヨタ純正モーターオイル
・ SN 0W-20(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20)
・ SN 5W-20(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20)
・ SN 5W-30(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30)
・ SN 10W-30(API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)
・ SM 0W-20(API SM, EC SAE 0W-20)
・ SM 5W-30(API SM, EC SAE 5W-30)
・ SM 10W-30(API SM, EC SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

ユ-21

M 35A69
01999-35A69
IS-2011年 8 月22日
2011年 8 月29日 初版
ＦＪクルーザー